

## 研究例会報告

〈第392回〉

日時：2024年2月25日(日)15:00～17:00

会場：大阪市立総合生涯学習センター第8研修室

テーマ：全国移動図書館実態調査報告

発表者：石川 敬史氏（十文字学園女子大学）

参加者：19名

石川敬史氏が実施した「全国移動図書館実態調査」の調査結果等に基づきながら、現在の移動図書館の傾向や特徴について報告していただいた。

この報告では、まず移動図書館に関する用語と、統計から読む戦後日本の移動図書館の歴史に関する説明がなされた。統計については、『日本の図書館：統計と名簿』（日本図書館協会）で「自動車図書館」の台数の推移が確認できるとのことで、1990年代後半から減少傾向が見られ、2000年代も微減傾向にあると述べられていた。

次に、過去の実態調査に関する紹介があり、全国の移動図書館の活動状況を網羅的に把握できる調査は、1979年の『全国移動図書館基礎調査』（日本図書館協会）以降は存在しないとのことだった。

その後、今回の調査について、調査対象や方法、調査結果の概要等に関する報告がなされた。この調査は対象を2つに分けて実施したとのことで、それぞれの実施時期等は以下の通りとなっている。

対象①：公立図書館未設置の市町村における移動図書館 → 2022年11月11日に、都道府県立図書館（47館）を対象に公立図書館未設置の市町村における移動図書館の有無等に関する照会文書を発送し、得られた情報に基づいて各機関（公民館、地域センター、文化会館等）に調査票を送付。

対象②『日本の図書館：統計と名簿』（2021年度版）掲載館における「自動車図書館」 → 2023年3月6日に対象の488館に調査票を発送（6月30日締切）

調査票の設計については、過去の実態調査（特に1979年調査）を参考に検討したとのことで、主な調査項目は以下の通りとなっている。

① 移動図書館の運営（愛称、制作年度、制作費、メーカー、定員、積載冊数、年間走行距離等）

② 移動図書館の巡回（ステーション数、巡回周期、標準的な駐車時間、広報、ステーションの運営等）

③ 巡回先での活動、積載資料（貸出冊数、積載資料、貸出方法、貸出以外の活動内容等）

④ コロナ禍の巡回（巡回内容、巡回上の特徴、新型コロナウイルス地方創生臨時交付金について等）

⑤ 移動図書館の目的（主要な目的、評価、課題、展望等）

調査結果の概要に関しては様々な項目について報告されたが、ここでは過去の調査（1979年調査）と比べて変化している部分を中心に記載する。まず、積載冊数については、過去の調査では1,000冊までが多かったが、今回の調査では2,500冊以上の自動車が増えているとのことだった。次に、巡回周期については、過去の調査では月1回が最も多かったが、今回は2週間に1回が多くなっており、巡回頻度は増加傾向にあるとのことだった。一方で、標準的な駐車時間については短くなっており、かつては50-60分の停車が最も多かったが、今回は30分以下が多数を占めているとのことである。積載資料の内容については、過去に比べて児童書の積載率が増加傾向にあるとのことだった。コロナ禍の巡回については、図書館が閉館であっても、移動図書館は巡回をした期間があったと答えた図書館が一定あったとのことである。

最後に考察について述べられ、調査結果から見えてきた全体的な特徴として、移動図書館を肯定的に評価し、その可能性を大いに認識しつつも、実際の（具体的な）運用面で課題を抱えている図書館が多いとのことだった。また、コロナ禍前の「定型的・固定的」な移動図書館活動から脱却する傾向が見られることから、コロナ禍の経験を通じて移動図書館活動の可能性が拡大しているのではないかと述べられていた。

なお、今後この調査の報告書が刊行される予定とのことである。詳細な調査結果についてはこちらを参照いただきたい。

（文責 日置将之）